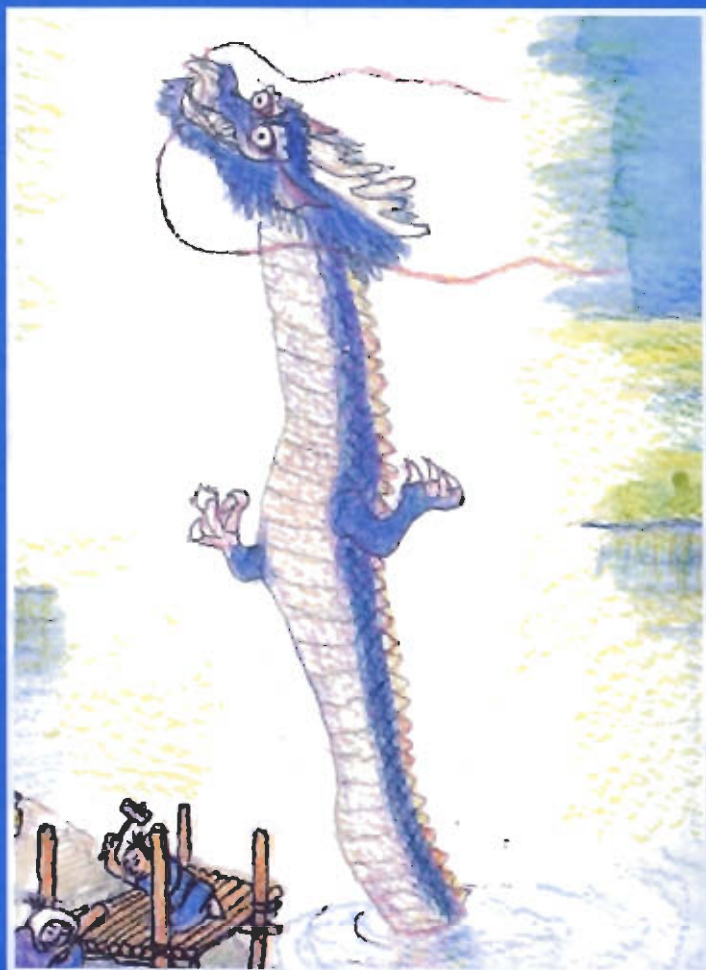


竜神伝説と質問コーナー



# 竜神伝説

## 竜神のお願い

ある晩、美しい女が弥惣兵衛さんを訪ねてまいりました。

そして、「新しいすみかが見つかるまで、九十九日の間だけ待ってほしいのです」とお願いいたしました。この美しい女は竜神だったのです。



## 用水路の知恵

弥惣兵衛さんは、用水をどう造ったらよいのか、日夜、悩んでおりました。するとある晩、竜神が夢に現れ白蛇の姿となって水路の形を教えてくれました。





## 病いと白蛇

工事にかかると、待ちかまえていたかの  
ように災難がつぎつぎと起こり、さすがの  
弥惣兵衛も疲れはて、どっと病いの床につ  
いてしまいました。

すると、あの女が弥惣兵衛の枕辺に現れ、  
「病気は私が治します。その代わり、私  
の願いを聞き届けて欲しい」と言いました。  
その夜から、決まった時刻になると、女  
が訪ねて来るようになりました。

日に日によくなっていく弥惣兵衛のよう  
すに、不思議に思った家来がのぞいてみる  
と、大きな白蛇が弥惣兵衛の体をなめまわ  
していました。

家来からそのことを聞き、驚いた弥惣兵  
衛は万年寺はんなんじへ移ったといわれています。

## 万年寺の竜神灯

弥惣兵衛さんが万年寺に移ったある晩、あの竜神が再び現れて、

「あなたは見沼を埋め立てて、私の棲家すまかを奪おうとしている。あなたに心があるのなら、私のために、三町四方の沼を残しておいてくれないだろうか」

夢から覚めた弥惣兵衛さんは、なんとか、竜神の望みをかなえてやりたいと思いましたが、沢山の人々のために行っている事業なので、自分一人の考えではどうしようもありませんでした。

竜神にすまないと思った弥惣兵衛さんは、境内に観世音菩薩をまつり、神灯をたて「竜神灯」と名付けて竜神の霊たまを慰めることにしました。

ところが、不思議なことに、毎晩のようにこの竜神灯に灯がともされるのです。

寺のお坊さんが様子を確かめようと見張っておりますと、闇の中から、それは美しい女が現れて、灯をともそうとしているのです。わけを尋ねると、

「私は見沼の竜神なのですが、見沼は干拓されて、住むところがなくなってしまいました。ですから、この寺の本堂に身をひそめているのです。弥惣兵衛が「竜神灯」をたててくれたので、こうして灯をともしに来ました。姿を見られてしまったのでもう来られません。これからは寺で灯をともしてください」と言っておいて消えてしまいました。

このことを弥惣兵衛さんに告げますと、竜神を哀れに思った弥惣兵衛さんは、永代灯明料にそえて供養料をお寺に納めたので、その後は寺で長く竜神の霊を慰めることになりました。



## 竜神、諏訪湖へ向かう

弥惣兵衛の熱意と、その意思の強さに、  
竜神は、とうとう、長年住みなれた見沼を離れることになりました。



黒雲にのって、  
新しい棲家へ向かったのではなく、  
娘の姿になり、  
とほとほと、  
ふりかえり、ふりかえり、  
新天地、信州の諏訪湖へ向かったそうです。

竜神の美しさに  
仕事も手につかなくなり、  
食欲もなくなった若者がいました。



味では日本一といわれる  
見沼のヤマトイモを食べたら  
元気になりました。  
良かったですね。

## ● 質問コーナー ●

見沼代用水の代は何でしょうか？

見沼が干拓され新田開発されるまでは、川口方面の田は見沼溜め井を水源としておりましたが、その代わりの水源を利根川に求め、はるばる、これらの田にも用水を引いたのです。

太字を合わせると「見沼代用水」になります。

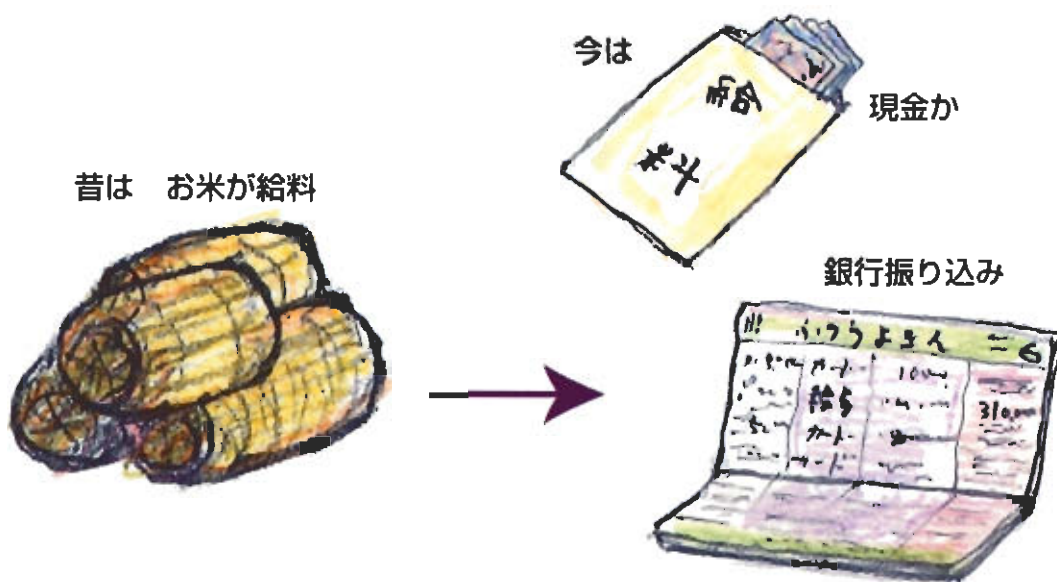
江戸幕府の役人井沢弥惣兵衛さんが新田開発を行ったのですが、幕府にとって何か良いことがあったのでしょうか？

なかなか良いところに気がつきましたね。

江戸時代以前は、武士（役人）の給料はお米だったのです。したがって、開発された新田の年貢（今の税金）により、五千石も幕府の収入が増えたことになります。

また、舟運が盛んになり、埼玉方面から持ちこまれる米や野菜が、当時、百万の人口を有する「世界一の都市」江戸の食糧を支えました。

見沼代用水は短期間（六ヵ月）に仕上げられましたが、その主な理由は何でしょうか？





工事の時期が比較的雨の少ない冬場に行われたこと、また、この時期は農作業があまりない(農閑期)ので、働き手が確保できたことによりです。

しかし、なんととっても、各村々で仕事をそれぞれ受け持った(工区分け)ことが驚くほど短い工期を可能にしたのだと思います。

また、手間のかかる構造物は、江戸の大工さんが受け持ったことも理由のひとつにあげられるでしょう。

これらを行うには、綿密な調査としっかりした計画がなにより大切であったのではないのでしょうか。

**工事を進める上で、弥惣兵衛さんが苦心をしたのは何だったのでしょうか？**

経験豊富な弥惣兵衛さんのことです。工事ではそれほど困らなかつたと思われませんが、やはり、**竜神様**には大変悩んだようですね。

郷里の自宅が氏神様と同じ高さにあつてはと、一段低いところに住まいを移したほど信仰心の厚い弥惣兵衛さん、竜神に迷惑をかけることに、ほとほと困つたらしく、それが「**竜神伝説**」として残つたのではないかと思われます。

竜神は、暴れ川のシンボルで、多くの洪水被害や災難の受け皿となつております。人々のやり場のない悲しみや苦しみを和らげる役割を持っていたようです。また、自然環境を象徴する神として位置づけられることもあります。

その地域に根ざす信仰や思想を大事にすることが、大工事の成功につながることを教えているのが「**弥惣兵衛さんと竜神**」の話ではないのでしょうか。

## 工区分け



竜神様は、なぜ、信州（長野県）の諏訪湖に向かったのでしょうか？

利根川を東に移したことにより、水量の少なくなった見沼に八丁堤を築いたのが、武田信玄にゆかりのある伊奈忠治です。

また、武田信玄の娘（見性院・穴山梅雪の妻）が家康の庇護を受け、住んでいた清泰寺も見沼の近くにありま

す。これらのことから、武田信玄が眠るといわれる諏訪湖に向かったのではないかと思われま

す。しかし、永年住んでいた見沼が新田開発され、移転を迫られた竜神様としては、簡単に開発が出来そうにない諏訪湖へ移ることにしたのだと思います。

公共事業で移転させられた人達を沢山知っていますが、皆、「二度と動きたくない」と言います。

見沼代用水工事では、多くの構造物が造られましたが、今も使われているもの、また、使われなくなったものがありますか？

ほとんどのものが今も使われております。通船堀の施設は、鉄道の発達により使われなくなりました。また、川の上に用水を通す「掛渡井」は洪水の時、流木などにより壊される危険があるので、サイフォン（伏越）に換えられました。

見性院

武田信玄の娘（すると母親は諏訪姫ということにもなります）



会津藩の名君

保科正之の育ての親



## はるばる、弥惣兵衛さんの墓参り

毎年、埼玉県から和歌山県に出かけて行き、弥惣兵衛さんの墓に、お参りをしている人がいます。

見沼代用水土地改良区の理事長の渡辺一郎さんです。渡辺さんは、水の利用（利水）に詳しい人で、特に「農業用水の権威」として有名です。

それだけに、二八〇年も前に、井沢弥惣兵衛さんが成し遂げた大事業に深い畏敬の念と感謝の気持ちを持っておられます。

このたび、この渡辺さんが中心になって、「井沢弥惣兵衛さんの銅像」が見沼代用水のほとりにある、さいたま市立「見沼自然公園」に建てられることになりました。彫刻家の細野稔人先生（見沼に架かる新大道橋の竜神もこの先生の作品）が、制作にあたられるとのことなので楽しみですね。